

日 時	2020年1月21日(火) 午後2時00分～午後3時30分
場 所	町田市役所2階 2-2会議室
出席者	<委員> (敬称略) 二井昭佳、中島直人、入江彰昭、渕元初姫、野間田佑也、小峰光正、佐藤正志、植木宗徳、高橋清人、前田純、山崎浩子、吉崎洋子 (12名) <関係者> 株式会社TNA (4名) <事務局> 萩野都市整備担当部長 地区街づくり課職員 (6名) 道路整備課職員 (2名)
傍聴者	0名

- 会議内容
- あいさつ
 - 会議の成立 (定数確認・欠席者の報告)、会議の公開に関する報告 (傍聴者報告)
 - 調査・審議事項
 - ・議題19-02号 「鶴川駅周辺再整備事業」における『(仮) 鶴川駅コンセプトブック』について

- 配布資料
- 次第
 - 参考資料: 「みんなで作る新しい鶴川駅」の景観コンセプト
 - 参考資料: 鶴川駅周辺地区 景観形成の考え方 (案)
 - 参考資料: 「(仮) 鶴川駅コンセプトブック」

■議事

- あいさつ
- 町田市景観審議会規則第6条第2項の規定による会議の成立に関する報告
(過半数以上の出席により、会議の開催について成立)
- 「町田市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条の規定による会議の公開に関する報告
(傍聴者なし)
- 付議事項
 - ・議題19-02号 「鶴川駅周辺再整備事業」における『(仮) 鶴川駅コンセプトブック』について

【事務局】

<鶴川駅再整備事業における『(仮) 鶴川駅コンセプトブックについて』説明>

【株式会社TNA】

<『(仮) 鶴川駅コンセプトブック』内容についての説明>

【会長】

最初に、コンセプトブックをどうやって公開するのか、誰に読んでもらうのか説明をしていただきたい。

【事務局】

コンセプトブックはホームページ上で公開させていただいて、さらに市庁舎や市民センターなど公共施設の窓口に置く形で考えており、景観協議等の場で、コンセプトブックを参考にしつつ、まちづくりに貢献していただく。

【会長】

市民の皆様にも見ていただくということですか。

【事務局】

市民の皆様にも見ていただけるような形を考えている。

【委員】

今回のコンセプトブックのように、非常にわかりやすい形で今後の事業計画を伝えるメディアというのはなかなかなく、そういう意味では非常に良い取組みだと思っている。その前提で意見ですが、鶴川駅の「コンセプトブック」ということで、常にこの駅の話が中心になるため、駅の位置がすぐわかるように、表示していくことが大事だと思う。読み進めていくと、駅の表示がない図面が多く、駅の位置がわかりづらいため、このコンセプトブックの位置づけがわかりにくくなるのではないかな。

あと特に大事だと思ったのは、ロータリーの変遷。2005年までの変化も大事だが、今回も大きく変化する。駅を変えると、駅の入り口も変わり、それに伴って周りも変わるというのが、段階的にわかりやすく示されるべきではないか。一番大事な駅の話、駅がどう変わっていくかというのを、しっかり書くべきではないか。

2005年から、現在を説明するのだったら、「この駅が動きます」と、最初に図面で示すことで、その後も理解しやすいと思う。

【会長】

確かに今、ご指摘いただいたように、駅が明記されていない図面があり、特にロータリーの変換の図面では、駅を明記していただいたほうが良いと思う。

【委員】

鶴川の景観特性が書かれているページあたりから、徐々に現状から計画に移り変わっていくところであるが、シームレスに書かれていて、読み込まないとわからない。駅舎の位置、駅の出入り口の位置、ロータリーの位置とか、現在と未来で比較図があれば、わかりやすい。

現在を説明するのであれば、過去から現在までにしておいて、第2章の最初に「駅舎が変わり、ロータリーの位置が動きます」という将来のことを言うほうがわかりやすい。

【会長】

駅100周年ということで、改札が最初にできた年がいつかを明記していただいたほうが良い。駅の位置と、駅の自由通路の位置がどう変わるのかを明示したほうがわかりやすい。

【委員】

「コンセプトブック」はいつ発行予定か。

【事務局】

今年度中に取りまとめていきたいと考えている。

【委員】

図面で、駅の変遷が書いてあるが、やはり市民の方が読む場合、昔の駅舎の写真とかで駅はどう変わっていったかとか、市民の視点で最初の変遷も整理されていたほうがわかりやすい。図面だけだとわかりにくい。

【委員】

専門家の方や、ワークショップに参加された方は、読むと思うが、公開される手段によっては、市民の方には内容が難しいと思う。このような形で公開するのは非常に良いことだと思うが、もうちょっと簡単にわかる、すぐ

見てわかる、これにかかわった人でも、ない人でも、鶴川はこんなに変わるというところがわかりやすい別冊子「コンセプトブック早わかり版」のようなものを一緒に製作するのはどうか。このままホームページに出されてもあまり見ないのではないかなという気がする。

【会長】

今、ページのボリュームが結構あると思うが、一部分だけに絞って出したらわかりやすいのか、全体的に圧縮したほうがいいのか。

【委員】

全体的というか、一番わかりやすいのは、現状と未来、駅舎がこんなに変わるとか、まちの感じやいろいろな環境が変わるという対照的な表現のほうがわかりやすい。ボリュームがあり過ぎる。「鶴川駅を考える会」を開催したという印象だけがすごく残り、肝心の将来どこが変わるのかというのが印象に残ってこない。

【事務局】

町田市の作成する様々な計画書には、正本と概要版等を作成することがある。今回も2通りのプランを考えながら、1つは詳細、あとは概要という形でできないか検討する。

【委員】

この「コンセプトブック」の位置づけだが、どういう手続で、いつごろこれが出されていくのか。具体的に実際、例えば個人の手が届くところのプロセスを教えてください。

【事務局】

今、鶴川駅周辺の再整備を進めている鶴川駅再整備基本方針という別の冊子がある。駅舎については小田急電鉄株式会社と整備し、自由通路と北側ロータリー、駅前公園については、町田市で整備していく。立体駐車場、駐輪場は小田急電鉄、あと駅舎に付随した商業も、小田急電鉄で今後整備していく。

南側エリアについては、町田市で区画整理事業を行って、基盤を整備し、商業地と宅地の部分については、地権者の方々とそれぞれ進めていく。

あと、景観形成に関しての協議については、事業者に計画を出していただいて、景観協議をやっていく。その際「コンセプトブック」を参考にさせていただいて、また、周りの建替えが発生した場合も、市民の自発的な活動が起こしやすい鶴川駅周辺に、していただくようお願いしていく形で考えている。

【会長】

それぞれ市、小田急電鉄、個別にお店を構えている人たち、いろいろな関係者がいるので、こういう方向で鶴川駅を魅力的にしましょうという取りまとめをしないと、各自が勝手につくってしまう。お金は使ったものの、結果としてあまりいい場所になっていないというのを避けようということで、この鶴川駅が今よりいい場所になるというのをわかりやすくまとめて公開するのが趣旨だと思う。その点で見たときに、もう少しこうすればわかりやすくなるとか、こういうことも大事なのではないか、みたいなものがあれば、ここでご指摘いただいて、反映できるものは反映してもらった方がいい。

【委員】

細かい表現方法とか、わかりやすくする手法とかは、いろいろデザイン的にあると思うが、目的と対象者が全ての基準になる。ターゲットは事業者だけでなく一般の市民も含まれるのか。今までの活動のアーカイブ的に冊子をつくるのか、未来に向けてコンセンサスとか理解を得るためのコミュニケーションツールとしてつくるのか。初めて見た人でも「こんなことが鶴川で起きていて、こういう経緯でできていて、こんなことをちゃんと考えられてできているのだ」ということが理解できることが望ましいと思うが、今のコンセプトブックは前提知識がないと理解するのは、難しいと感じる。

やはり最初にこのプロジェクト自体が何なのか、説明が要る。

未来はこうなります、というのを最初に見せる。これを見た人が、不安を取り除くとか、知らないことが知れるとか、これをつくる目的がしっかり描かれていると良い。

【会長】

とても大事な指摘かと思う。

今回のプロジェクトがどういうことを目指して行われるのかということ、どこの部分で読み取ればいいのか、探しにくいのではないかとということ、それから現在から何がどう変わるのかをこれもまた探さないと、変わる位置がわかりにくいということ。北側ロータリーも、現状と形が似ているが、実は位置がすごく変わっている。ロータリーだけ見ると、長方形のこの形自体は、今と同じ形をしているから、どのページから変わっているかというのがわかりにくい。

【委員】

これはもしホームページで公開するときに、パブリックコメントをもらうのか。事前に鶴川駅のパブリックコメントをもらったもので、つくっているのか。

【事務局】

皆さんで考えていただいている内容を参考にしている。パブリックコメントは実施していない。

【委員】

では、初めてこの「コンセプトブック」をもって、パブリックコメントを求めるといったことなのか。

【事務局】

パブリックコメントを求めないで、皆さんがつくり上げたものでまとめたかと考えている。

【委員】

南町田のグランベリパークの場合は、パブリックコメントをやったのか。

【事務局】

南町田は、行った。今回の場合は、「ワークショップ」と「アイディアコンテスト」とか、皆さんの意見を集約したものという位置づけで考えている。

【委員】

町田市で都市づくり、まちづくり関連で「コンセプトブック」という名称を使って冊子を作っていたことがあるか。

【事務局】

名前自体は仮称なので、景観形成のために使っていきたいと考えている。南町田だと「考え方ノート」になる。名前についてはご意見をいただきたい。

【委員】

ブックとなると、マニュアル書みたいなイメージがすごく強い。

【委員】

コンセプトブックに描かれているエリアは、公認されたものではないのか。決まったものなのかどうか、読んでいてわからない。

【事務局】

コンセプトブックで描いている絵は、まだ決まったものではない。

【委員】

決まったものではなく、こんなふうにしていきたいなということ、市と、ワークショップに参加した人が考えているということでしょうか。説明がないと、パブコメが何かをしてしっかりと決まったもののようにも見える。市民の方々は自分の街がこうなっていくというのを、いきなり最後の結果を知らされるのではなくて、その途中

の過程で、議論の提供をされるというのは大事である。「コンセプトブック」というのは、基本的に事業者さんにとっては、鶴川で何か事業をしようとするときに、市はこう考えていると伝わって、公式の協議の以前の段階から協議できるという役割はある。その役割が書かれていない。

【会長】

いろいろな関係者がかかわりながら、事業を動かしていかないと、いいプロジェクトにならないというのが日本全国で起きている中で、どういう将来像を描くのかというのをわかりやすくまとめる資料自体は比較的よくある。

【委員】

北口は、昔小さいバスのロータリーがあって、道路が狭くてというのが、今、随分きれいになったなというのがよくわかる。南口は、駅のすぐ横に田んぼがあり、全然発展なくて、今回ロータリーができる。今から鶴川駅周辺がこうなりますという夢みたいなものを与え、将来の姿、結論を最初に見せたほうがわかりやすい。

【会長】

最初に結論というのは、それで足りているかどうかかわからないが、どうなるのかというのがもっと早いページに来たほうがいいのではないかという意味合いか。

【委員】

ここにロータリーができます、こう変わります、みたいなものがあつたほうが、わかりやすい。それから徐々に市民の活動が生まれる空間と説明していったほうがわかりやすい。

【委員】

「コンセプトブック」って初めて聞いたときに、それが何を意味するのかということがわかりづらく、目次のページを拝見して、まだ途中の話なのだとして理解しながら読んだ。2025年にどういうものが出るのかということ、最初に見せてほしい。

なので、目次の横の最初のページに、この「コンセプトブック」が何を示すものなのか、そのプロセスを示すことによって、市民や、関係者の方がどういうふうに関わってこれに今後かかわっていただけるのかということ、意識して書かれていると、この「コンセプトブック」の位置づけがもう少し明らかになると思う。

【会長】

一番初めのページに書いてある文章を見ると、活動のアーカイブとしてまとめたようにも受け取れるし、これをもって鶴川駅をこういう形に整備していくものども受け取れるし、どちらの受け取り方もできるような位置づけに見える。この「コンセプトブック」という呼び名とあわせて、これが一体どういう役割を果たすべきものなのかということがわからない市民も多いのではないか。

【委員】

コンセプトの中で、ゴールがいつなのか非常に皆さん気になっている。例えば駅舎がいつ変わるのかとか、これがないと、なかなか具体性がない。いろいろなことがあって、やはりゴールが、計画ではあつたとしても、どれぐらいの計画でやっているのかがトップに出てくると、将来的に子どもが育つて家を買おうとなった場合は、鶴川は10年後にはこうなるよという夢があれば、非常に期待感も膨らんで、非常にわかりやすい。

【会長】

事務局は3月末を作成目標としているが、今日の、いただいているご意見だと、皆様に確認してもらわないといけないことが多いという状況である。

【事務局】

前回の審議会でご説明させていただいた鶴川駅再整備基本方針の中で整備する時期とか、将来の位置とかはそこで示させていただいて、コンセプトブックのほうは、景観に特化したもの、どういう活動ができるのか、ワークショップとかで出たこういうことをやりたい、できたらいいなとか、そういったものを参考にさせてもらって作

成している。ロータリーなどがこのように変わっていくということは、再整備基本方針にしっかりうたっており、コンセプトブックはそれに付随する形で考えさせてもらっている。ただ整備方針を入れたほうがわかりやすいということであれば検討する。

【委員】

各回40名近くの方々が集まって、全部で10回のワークショップをやられたことはとても意義があつて、またそこに参加された方々の熱意にも本当に敬服するものがある。そういった方々の熱い思いが冷えてしまう前に、鶴川駅前のプレスメイキングを今後どうやっていくか、思いを冷まさないためにも、コンセプトブックは出していったほうがいいのだろうと思う。

でも、未来に向かってのアイデアがまだ全体として町田市で固まり切れていない。一方で、240近くのアイデアを、アーカイブ化してきちんと出すということは、大事なことである。

その中で、将来こんなことを鶴川駅では考えていますということが、このアイデアも踏まえて、こういう駅舎、あるいはこういう駅前空間を考えていますという方向性でまとめていくのが望ましい。ここからさらに情報を追加して、まだこれから検討していこうという部分の資料を追加してしまうと、さらにボリュームが高まって、さらにわかりづらくなってしまふような気がする。

【事務局】

コンセプトの一番大前提になるのが、公共施設の景観形成指針。どのようなまちになるかというパーツもできていない中で、公共スペースをどのように考えていくのか。そこから我々が始めていかなければならない。例えば道路、公園、駅、そういったものをどのようなコンセプトや、ワークショップでやった意見を反映したり、そういった熱意をどうつなげるかということ、どう反映して、うまく開けるかということが大事である。

第2に、それを含めて、沿道の街をどう統一するかということと、どうやっていくかということが、2つ課題があるかと思う。まずは公共施設、公共空間をどのように描いているかということが第一歩として、この「コンセプトブック」をつくる目的の1つと、我々としては考えている。

1つの期限として「コンセプトブック」の作成については、小田急電鉄様を通して、TNA様に委託をしており、期限が3月ということで3月中にまとめたいたいという意思がある。まずは公共施設、公共空間で、市民の皆様が使うところを、意見をいただきながら、イメージ化できるような形で、「コンセプトブック」をまとめていきたい。

【委員】

第3章のワークショップのところは、空き家のいろいろな活用とか、市民の方々から出た意見を紹介する章なので、いろんな意見が入っていていいと思う。しかし、2章は公共まさに空間としての町田市の考えがこれに集約されているところは、もうちょっといい絵にしたほうがいい。特に北口の駅前広場は今とほとんど変わらない印象である。

自動車の混雑があつて、車の空間が非常に足りないということだが、新しい絵もほとんど車の空間で、人間のための空間が極めて少ないし、公園の位置も、わざわざ立体駐輪場の横に、しかも香山の見えない場所に置いて、これで公共空間をつくっていくのだと、自信を持って言えるのか。北口の公共空間の作り方の考え方が熟していないと思えるタイミングで、コンセプトブックを出すことがいいのかどうか。今までの自動車中心の駅前広場が動いたというだけのように見えて、それが町田市の、今、持っている公共空間のコンセプトだと本当にうたっているのか。もしかしたら実現できないかもしれないけれど、もう少しレベルの高い、志の高い絵を描いたほうが、実際に着地はそこまで行かないかもしれないが、夢を描かないと、民間の事業者も、投資をしようとか、いい商売をしようとかという話に、この絵を見てなるかなというのが、正直心配である。本当はそういった中身の議論も必要なのではないか、という印象がある。

この絵の位置付けにもよるが、何か表現だけでできるかどうか、表現でも大分変わる。建物の表現を変えれば、広々とした感じになると思う。

市としては、この絵をどのように作ってこられたのか。これは本当に自信作なのか。

【事務局】

街づくり検討会を十数年、鶴川市の皆さんとやってきて、交通広場の大きさ、公園の配置、自由通路等、配置については長年検討してきた。

都市計画決定をもって、配置については、警察協議、東京都、各種含めて協議をした結果、この形の絵になった。見せ方、見え方とか、いろいろ課題はあると思うが、基本的には地元の方と詰めてきた内容である。

【委員】

道路の幅員とか全てこれで決まっているのか。

【事務局】

決まっている。これから詳細設計に入るが、どのような使い勝手にしたらいいか、例えば、歩道空間と公園空間を一体的に使うとか、広場空間と新たにできる小田急電鉄の商業施設との、いわゆる公開空地の中で、いかに心地のよい滞留空間を目指していくかということについては、これから調整はある。この絵のまちの配置は、昨年9月に都市計画決定をしている。

【委員】

そうであれば、公共空間だけでなく、民地側もこうしてほしいということを積極的に書いてもいいと思う。例えば小田急電鉄の新設商業の建物に対して、広場空間をとってほしいという表現をしたほうがいい。もしかしたら駐輪場の1階にはカフェとか入るかもしれないけれど、駐輪場と書いてしまうと、公共空間だけがあって、民地側は全然何もないと見えてしまうので、絵の表現問題であり、もう一步ブラッシュアップするといいいのではないか。

【会長】

今の北側ロータリー、新しい北側ロータリーが車の求めるもので、設計されていて、市民の方々のいろいろな意見としては、滞留するスペースが欲しいとか、カフェが欲しいとかという意見がたくさん出ているわけなのだが、北側にはそれに適したような空間があまりできていないところがあるので、ロータリーの形状は、もう少し再検討してほしい。

今日いただいたご意見は結構共通しているのが多いため、1回ここで少し整理しますと、最初手にとったときに、一番初めに見るであろうこの「コンセプトブック」の位置づけが書かれている最初のページに、このプロジェクトの目的だとか、それによって鶴川駅にどんな場所をつくりたいのかとか、そしてこの「コンセプトブック」というのは、そのためのどういう役割を果たすものなのか、一体この本がどういうものなのかということがわかる文章へと置きかえる必要があるのではないか。

それから何かが変わるということはわかったのだけれども、結果として、今ある改札も大幅に変わったり、それがどこに変わるのかが、いわゆる現在と未来を、非常にわかりやすい形で示す必要があるのではないか。

あとは、今後どんな感じでそのプロジェクトが進んでいくのかという目安は少なくとも必要ではないか。

今、図面が非常に多いが、例えば昔の写真を使うとか、駅の改札の位置とかをしっかりと明示するとか、あるいは駅の位置というのを明示して、ページが変わっても、追跡できるような工夫が要るのではないか。

またコンセプトブックを見たときに、「鶴川駅ってこんなに変わって、すごく期待が持てるな」というところの表現をもうちょっとふやすべきなのではないか。

宿題が多いが、ここからどのように進めていくか。

【委員】

このコンセプトブックの位置づけですが、10回実施した「鶴川駅を考える会」のアーカイブの目的の冊子と割り切ってしまうのはいかがか。話し合った結論でこういうビジョンが出ましたと、初めての人が見るということを考えずに、ある程度前提知識がある人が見るものとして位置づけて出してしまうということにできないか。その上で最低限の前提知識と、基本的に欠けている情報を差し込んでいけば、ページ数をふやさずとも、情報、図版とかを工夫すると、初めて見る人にも十分理解しやすく、大幅な変更なくいけると思う。やはり、鶴川駅に置いて誰でも持っていったいいいという、やはり名称の問題とか出てくると思う。コンセプトブックをつくる目的と意義みたいなことを決めたら、もう少し出口が見つかると思う。

【会長】

事務局に相談ですが、もし仮に3月末までに完成するとして、もう一度景観審議会を開くことが可能なのか。この委員の中には景観アドバイザーという、土木、建築都市計画等、個々のプロジェクトについて相談をしているような人間がいる。南町田のグランベリーモールと鶴間公園の場合は、4人ぐらいの景観アドバイザーが、市と、その事業者と幾つか調整をして、最終的に「南町田の考え方ノート」をまとめ、基本的にはそれに従って東急も公園との接続部分を、しっかりつくっていきますよという、協定みたいなものをつくるかわりに、ホームページにアップするというものにした。もしどうしても3月末までにということになれば、非常にタイトなスケジュールになるが、今日いただいたものを含めて、これだけの人数を集めて何回も議論するのは難しいと思うので、お任せいただいて、協議して仕立て直したものをもう一度見ていただくタイミングをつくる。それが理想的には3月中なのでしょうけれど、今日のご意見の内容からすると、いずれにしてももう一度見ていただく必要はあるかなと、いかがでしょうか。

【事務局】

いろいろと整理すると、この目的は、1番はワークショップの延長線のところであって、その機運を高めている。熱いうちにまとめ、これからの景観協議に役立てようというのがある。もう1つが、町田市がやっている公共事業景観形成指針のもとになるような、公共施設、このようなコンセプトでやるとある程度決めて、例えば今後、建物の建築、道路、公園の配置とか、造園の観点から、1つ1つのベースとなる考え方を持っておきたいというのがある。

もう1つは、市民の方にどのようにPRしているかということであれば、コンセプトブックをもっと読みやすく、理解しやすいものに仕上げるべきかなと考えている。今回、いろいろな宿題をいただいたので、どのような形でまとめたらいいかということ、会長と相談させていただいて、委託を出している関係で、スケジュール的なところがあるので、そこも相談させていただければと思いますが、いかがでしょうか。

【会長】

そうしたら、どうでしょうか。このままで印刷はしないことを約束する。コンセプトブックを市民の皆さんに見ていただくことは、事業をうまく円滑に進めるためには、とても大事なことだと思う。今日が1月20日で、もしどうしても3月末に完成ということであると、どういう会の開催ができるかというのは、後で相談したいと思うが、そのこと自体は預かりにさせていただいて、いずれ何らかの形でごらんいただくか、市のほうからご説明に上がるか、あるいはその資料のご意見をいただけるような形でお送りさせていただくとかというのを考えてさせていただくことでよろしいか。

【委員】

例えば、「コンセプトブック」はそのままで、副題に例えばですが、「アイディアコンテスト報告集」とか、何かしら副題にそんなものを入れて、アーカイブ的なところも加味するような、そんな趣旨でもよろしいのかどうかも含めて、ご検討いただければと思う。鶴川駅というのは、小田急線の中でも急行が止まらない各駅停車の中で

も、最も乗降者数が多い駅である。それでいて鶴見川の源流域にも当たり、川の源流の中で見ても、ゲートウェイ的な要素が強い。目次の中に歴史・概要、地区コンセプト、鶴川駅という形になっていますが、もともと鶴川駅としての「コンセプトブック」であるならば、この目次には、鶴川駅の歴史、鶴川駅の地区コンセプトとか、恐らく鶴川駅という言葉が入るのだろうなと思う。

そういった意味でも、駅としての自然的な概況とか、歴史的な概況というのがあっていいのかなと思う。

【委員】

私が考えていたコンセプトというのは、まち全体の、例えば歴史を大事にするまちとか、そういう大きなまちづくりのコンセプトを、まずは考えるものだと思っていたが、結構エリアごとのイメージが出てきている。例えば、鶴見川沿いに遊歩道をつかって、環境学習の場をつくるとか、いろいろなところに基本的な考え方を落としていくということになってくると思うのだが、そういう方向から、それに基づいてここはこうしますとかというほうがわかりやすい。

【会長】

例えば、最初の方のページで書かれている「水と緑と大地の郷」であったり、実際の計画の中で車中心の空間に見えるロータリーであったり、コンセプトブックにどのようにリンクさせていくか、落としていくか、その他、多々あるのかなと思っている。

鶴川という地区全体という話ではなくて、あくまでも鶴川駅の周辺をどうするかという話に絞らないと、話がいろいろあるのではないかなと思うので、話題は多少絞らせていただくのかなと思う。

【委員】

会長がさっきおっしゃった何人かの代表で検討して、それから全体会議にかけるという方式を今回とれないか。南町田でやったような。その方が良くと思う。

【会長】

その辺も含めて、時間の問題、時間との兼ね合いでやれるかどうか検討する。

ご指摘いただいたことを反映して、公開できる段取りとして、どういうやり方が可能かというのを、市と相談してまた必要に応じてご協力、ご意見を伺うようなことにしたい。今日はこれで一旦事務局にお返しします。

【事務局】

大変多様なご意見ありがとうございました。去年の2月からワークショップが始まり、それが終わって、TNA様からコンセプトブックをつくりたいという話をいただき、景観コンセプトを町田市でつくっていたので、それに沿って一緒につくっていくということで始まりました。

最初、100 ページぐらいあり、話し合いを重ね、ここまで詰めてきたところであるが、やはり小田急電鉄様、TNA様、町田市も製作者として、前提知識があるうえで理解できるものになってしまっていたのだと感じている。前提として今回完成版ではないということで、誤字脱字等もこれからまた見ていかなければいけない、見やすい、見にくいというのも見ていかなければいけないなと思う。

では、最後に、地区街づくり課長の原田よりご挨拶を申し上げます。

【地区街づくり課長】

本日は、大変貴重なお時間をいただきまして、まことにありがとうございました。本日の貴重な意見を参考にしながら、「コンセプトブック」のほう、まとめさせていただきたいと思います。本日、いただいた宿題が、今後どのように「コンセプトブック」をまとめるかにつきましては、改めて二井会長とご相談させていただきながら、最善の策をとっていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

— 了 —